

—正誤表—

94 頁 I. 細菌 表 5 「抗緑膿菌作用を有する代表的な抗菌薬」最上段に誤りがありましたので、訂正して正しい表を記載させていただきます。

【誤】 小児 1 回投与量, 1 回成人量 → 【正】 小児 1 日投与量, 1 日成人量

表 5 抗緑膿菌作用を有する代表的な抗菌薬

薬剤	略号	投与経路	小児 1 日投与量 (mg/kg)	1 日成人量 (最大量)
ペニシリン系 piperacillin tazobactam/piperacillin	PIPC TAZ/PIPC	IV・IM IV	50~125(最大 200) ※1	2~4 g (8 g) 13.5 g
セフェム系 cefoperazone ceftazidime cefpirome cefepime cefazopran cefoperazone/sulbactam	CPZ CAZ CPR CFPM CZOP SBT/CPZ	IV・IM IV IV IV IV IV	25~100(最大 150) 40~100(最大 150)※2 40~80(最大 160, 髄膜炎 200) — 40~80(最大 160, 髄膜炎 200)※3 40~80(最大 160)	1~2 g (6 g) 1~2 g (4 g) 1~2 g (4 g) 0.5~1 g (4 g) 1~2 g (4 g) 1~2 g (4 g)
カルバペネム系 imipenem/cilastin panipenem/betamipron meropenem biopenem doripenem	IPM/CS PAPM/BP MEPM BIPM DRPM	DIV・IM DIV DIV DIV DIV	30~80(最大 100) 30~60(最大 100, 1 日 2 g) 30~60(最大 120, 1 日 2 g) — —	0.5~1 g (2 g) 1 g (2 g) 0.5~1 g (2 g) 0.6 g (1.2g) 0.5 g (1.5 g, 1 回 0.5 g)
モノバクタム系 aztreonam	AZT	IV・IM	40~80(最大 150)※4	1~2 g (4 g)
アミノグリコシド系 amikacin bakanamycin tobramycin dibekacin gentamicin isepamycin	AMK AKM TOB DKB GM ISP	DIV・IM IM DIV・IM IM IM DIV・IM	4~8(新生児・未熟児 12) 10~20 3 1~2 0.8~2.4 —	200~400 mg 400~600 mg 120~180 mg 100 mg 80~120 mg 400 mg
キノロン系 levofloxacin ciprofloxacin tosufloxacin prulifloxacin pazufloxacin	LVFX CPFX TFLX PUFX PZFX	PO・DIV PO・DIV PO PO DIV	— — 12(最大 360, 1 回 180) — —	500 mg PO : 200~600 mg DIV : 600 mg 300~450 mg (600 mg) 264.2 mg (396.3 mg) 0.6~1 g (2 g)

※1 敗血症・肺炎 337.5~450, 腎盂腎炎・複雑性膀胱炎 225~337.5

※2 未熟児, 新生児: 日齢 0~3: 40~60, 日齢 4~: 60~80 (最大 150)

※3 新生児: 日齢 0: 20~40, 日齢 1~7: 40~60, 日齢 8 以降: 60~80 (最大 1 回 40 mg/kg)

※4 未熟児, 新生児: 日齢 0~3: 40, 日齢 4~: 40~60

お詫びと訂正

186 頁, 表 3: 欄外註釈部に誤りがありましたのでお詫びして訂正させていただきます (太字下線部分を訂正しました)。

表 3 小児の除菌療法に用いられる主な薬剤と一般的な用量

	用量 (mg/kg/日)	最大量 (mg/日)
プロトンポンプ阻害薬		
ランソプラゾール*	1.5	60
オメプラゾール**	1.0	40
抗菌薬		
アモキシシリン	50	1,500
クラリスロマイシン	10~20	800
メトロニダゾール	10~20	500

プロトンポンプ阻害薬はいずれか 1 剤, 抗菌薬は一次除菌療法としてアモキシシリン, クラリスロマイシンの 2 剤を使用。ペニシリンアレルギーではクラリスロマイシン, メトロニダゾールの 2 剤を用いる。一次除菌が失敗した場合の二次除菌としてアモキシシリン, メトロニダゾールの 2 剤を用いる。分 2 投与とし, 治療期間は 7 日間 (~14 日間) である。

*カプセルははずして腸溶顆粒として, OD 錠は粉碎して投与可。

**腸溶錠の粉碎投与は不可。 (文献 4 より引用, 一部改変)